

高等学校 令和7年度（1学年用）教科		国語	科目	言語文化
教科：国語	科目：言語文化	単位数：2	単位	
対象学年組：第1学年 1組～6組				
教科担当者：（1組：田口・柚木）（2組：金澤・柚木）（3組：田口・柚木）（4組：金澤・柚木）（5組：田口・柚木）（6組：金澤・柚木）				
使用教科書：（大修館書店「言語文化」）				
教科	国語	の目標：		

【知識及び技能】教科書の中の主な漢字の読み書きができ、語彙をほぼ理解して使うことができる。

【思考力、判断力、表現力等】文章を読んで自分の考えを書くことができ、他者の話を聞いて自分の意見を伝えることができる。

【学びに向かう力、人間性等】自ら課題を見つけ積極的に取り組むことができ、他者と協働して課題に取り組むことができる。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
- 教科書の中の主な語彙がほぼ理解できる。 - 複数の資料を活用して関連させたりすることができる。 - 言語文化の背景や現代との繋がりについて理解できる。	- 文章を読んだり話を聞いたりして主題を理解することができる。 - 根拠を示して自分の考えを書いたり話したりすることができる。	- 規律を守って授業に取り組むことができる。 - 提出物の期限を守って課題に取り組むことができる。 - 分からないことや興味を持ったことについて自ら課題を設定し、学びを深めることができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 話・書・読	評価規準	知	態	思	配 時 数
	いろは歌 【知識及び技能】 ・音頭に必要な文語の決まりや訓読の仕方を理解している。	○「いろは歌」の成立や今様形式について知り、おおよその意味内容をってから音読する。		【知識及び技能】 ○歴史的仮名遣いについて理解し、本文を音読している。 ○文節や品詞の種類を理解し、本文を文節で区切り、新出語句、重要語句を調べている。 【思考力、判断力、表現力等】 ○本文の大意を理解し、登場人物の心境、語り手の意図を説明している。 ○登場人物の心境と重なる自分の経験を説明している。 ○僧が「そら寝」に気付いたか否かについて意見を発表している。 ○笑い話としての面白さを説明している。 【学びに向かう力、人間性等】 ○学ばに向かう力、人間性等】 ○教材に興味を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。 ○古文に親しもうとしている。 ○登場人物や舞台について自分の言葉でまともてている。				10
	古文編『宇治拾遺物語』『児のそら寝』 【知識及び技能】 ・古典の世界に親むために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現等について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・作品の内容や形式について批評・討論をしている。 ・異なる時代に成立した随筆や小説、物語等を読み比べ、それらを比較して論じたり評論したりする活動を実施している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・説話文学に興味を持ち、登場人物の言動から多様な価値観を読み取ろうとしている。 ・古文の説話と現代のさまざまな文化との繋がりを理解しようとしている。	○「古典の言葉」を読み、文節や品詞の種類をまとめる。 ○重要語句を古語辞典で調べる。 ○文章を繰り返し読む。 ○登場人物の行動と心境をノートにまとめる。 ○僧の笑った理由を考える。 ○笑い話であることを理解する。 ○登場人物の行動や心境と重なる自分の経験をノートに書き出す。	○					
1学期	定期考査							1
	古文編『伊勢物語』『筒井筒』 【知識及び技能】 ・我が国の言語文化において、特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使用することを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・特徴的な表現技法と効果について理解している。 ・作品の歴史的・文化的背景等を理解している。 ・古典作品を読むために必要な文語や訓読のきまり、古典特有の表現等について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・文章の種類を踏まえて内容や構成、展開等についての確に捉えている。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・作品の成立した背景や他作品との関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・作品に興味を持ち、物語の内容や作品の背景、歌に込められた登場人物の思いを捉えようとしている。	○古典作品の中に、現代でも用いられる言葉を見出すことで、その共通点や差異について考える。 ○折句のおもしろさに気づくよう支援する。 ○文語のきまりや表現については暗記を優先するのではなく、その表現効果の味わいを共有することを目指す。 ○歌物語については、和歌と詞書等の関係について確認し、内容については大意が把握できるよう支援する。 ○本文の背景として成立した作品が、身の回りにあることに気づくよう促す。 ○資料を用いて具体的にイメージできるように支援する。 ○和歌の修辞技巧については、身近な言葉で創作することにより、その表現効果に気づけるよう支援する。	○	【知識及び技能】 ○作品に表れた言葉の意味や文化的背景を理解し、興味関心を持つことによって語彙を豊かにしている。 ○折句の表現技法とその効果について理解し、文章表現を深く味わっている。 ○古典を読むために必要な文語のきまりや表現について理解し、物語の世界をより深く味わっている。 【思考力、判断力、表現力等】 ○歌物語について理解し、話の展開や登場人物の心情を的確に捉えている。 ○本文の趣旨を踏まえ、他の作品や制作物に及ぼした影響について深く理解している。 【学びに向かう力、人間性等】 ○古人の旅の様子等について興味を持ち、資料で調べたり、和歌の修辞技法を自分の文章表現に取り入れたり、表現効果を味わおうとしている。				12
	定期考査							1
	現代文編『羅生門』（前半） 【知識及び技能】 ・常用漢字の読み慣れる。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に意欲的に関わろうとしている。	○わからない漢字の読みを確認し、自ら書けるようにする。 ○下人の心情が描写されている箇所を抜き出して、どのような心情なのかを確認する。 ○各場面の比喩表現について、どのような印象を受けるかを確認する。 ○「羅生門」の学習から、古典文学への世界への関心を深める。	○	【知識及び技能】 ○場面の展開を把握しながら本文を正確に音読でき、ワークシート等で新たに学んだ漢字を的確に用いている。 【思考力、判断力、表現力等】 ○場面ごとに、状況によって変化していく下人の心情を的確に捉えた上で、作品のテーマについて考えている。 ○作品の展開を把握し、各場面の比喩表現や情景描写の特徴について説明している。 【学びに向かう力、人間性等】 ○各場面毎に印象を話し合ったり、意見を出し合ったりすることで、他者の意見について関心を抱き、様々な考え方を取り入れようとしている。				14
	定期考査							1

